

## 「私の目指すよい国」

テーマ・「次世代の為に、こんな国だったら！」

新しい国家像とは、地球全体の環境の激変と欧米の拝金至上主義の影響で、世界中が混沌とした社会・経済になり、ずたずたになってしまった。

「よい国」を創るにも、これをどう処するかが大きな課題ではないだろうか。

我が国はまだまだ、明治維新後の体制と大して変わらない、また55年体制で助長・温存された、官僚支配の構図がそのまま残っている。この負の遺産の処理・対策が必要である。

ヨーロッパのスウェーデン、デンマークは、高福祉・高負担の国として知られている。基本的に、国民に高負担を強いながらも、その税金の使い方が明確であり、見える化したものであるというのが、最大の利点である。

北欧の国民の将来に対する不安感を極力無くし、安心感を提供し国民の納得を得ている。

出来れば、日本もそういう国になって欲しいと願う。

例えば、普通教育は言うに及ばず、大学も授業料だけなら無料。医療費も失業手当も心配なし。年金は全国民同じシステム（ただ、そのシステムの中である程度選択ができる。日本のように厚生、国民年金などとわかれていない）。

生活困窮者だけでなく年金受給者にもふんだんな住宅手当が支給され、児童手当は子ども1人につき年額およそ20万円以上（3人目からは増額。日本は1人年額6万円）。

同国でも全てが上手くいっていると言う事ではないが、一つの学ぶべき姿ではないだろうか。

また思想的には元々、日本も儒教国で、儒教は、五常（仁、義、礼、智、信）という徳性を拡充することにより五倫（父子、君臣、夫婦、長幼、朋友）関係を維持することを教える。

こういった思想形態を、思想信条の自由と言う名目の下で、学校教育の中で教えてこなかった事が、日本人の持つ自然との調和や、その自然の中に八百万の神を見出し、人間も自然の一部と言う考え方が薄れてしまっている。

勿論儒教のみが全てと言う事ではない。

しかしながら、特に都市部の人々にそういう概念・観点が

多く欠落して来ているのではないだろうか？

地方へ行くとまだまだ日本の原風景が残っており、人も自然も素朴である。

強いリーダーシップと『志』のある人々が集いながらも、明るく未来あるこの国を創っていくには「志ある人の活動が単発ではなく持続的に行われ、連鎖しあうコミュニティとなること」「二人のカリスマに頼った地域社会再生ではなく、次々と若い世代の担い手が育つコミュニティとなること」を目指したい。今、正に強制的にはなく、個々が自立し新たな思い・志∥自己の生き方を、模索・思考し議論をして、多様性を残しながら皆がその思考形態を、共有するべき時ではないでしょうか。

もう待ったなしの時が来ています。

## 提言一

具体策としては、気概を持った国民と真の『志』と使命感を持った政治家・官僚・そしてマスコミが必要とされ、国民も自立した思考を持ち、それに積極的に参加し、公僕と呼ばれ

る公務員には、政治がリーダーシップを取り、事務次官廃止、局長・部長クラスは全て政治家が責任を持って就任し、実務責任を負う立場になるべきである。

(このモデルは、先出のスウェーデン・デンマークにある。コペンハーゲンやストックホルムにその具体的事例がある。)

## 提言二

「良識の府」と呼ばれる参議院は、今や衆議院議員の天下り先・タレント議員など数合わせの場となっている感がある。全てとは言わないが、1/3の定数で充分ではないだろうか。

それには、当然国民の厳しい監視の目が必要である。その一つが、「新しい公共をつくる市民キャビネット」＝国民主体の存在が必須となってくる。

あらゆる課題に、総論賛成・各論反対と言う常に付きまとう多くの問題に対して、本当の意味での自由主義社会が機能する為に、国民の叡智を最大限引き出すシステムが必要である。

もはや、今後の日本に高度経済成長を期待してはいけな

次世代の為にも、穏やかで、成熟した社会・経済を緩やかなカーブで成長して行き、潤いに富んだ生活が出来るよい国・日本を目指そうではないか。

次世代の苦難は、既に始まっている。高校生の就職率が70%に満たないと言う現状！

環境の激変による過酷な気候変動・気象の変化に翻弄され、そして水争いを筆頭に、資源戦争に巻き込まれる可能性が大である。

この国際化の時代で、我が国日本の次世代が平穩に暮らしてゆく為には、欧米も当然であるが、特に中国・韓国・東アジアとの共生が大きなテーマであり・課題である。

### 提言三

その為には、先ずは自給自足で食料の確保と余剰分の輸出そして、技術立国としての立場を取り戻し、特に環境分野での世界貢献が必須であると考える。

それが出来て初めて、次世代が二等国・三等国国民にならない唯一の道ではないでしょうか。

本来、日本人は勤勉で礼儀正しくまじめな国民である。

美しく、美味しく・奇麗な水と、空気と土を持ち、森林大国でもある我が国「日本」を更に磨きなおして、次世代に胸を張って引き継げる「よい国」にしようではないか。

「次世代の為に、持続可能な社会・環境・資源を如何に維持するか」が最大テーマであり目標ではないでしょうか。

我が国を囲む海には、多くの資源が眠っている。我が国の、世界第6位の排他的経済水域には多くの資源が眠っている。

ある意味、資源国としての日本を見直し、メリハリのある政策・開発で、この国を「よい国」にしたいと願う。

ここに付け加えるが、もはや国という単位では考えられない状況が有ると言う事も認識すべきである。

先般のチリの地震による大津波は、ジェット機と同様以上の速さで日本に到達している。

実感として、地球市民としての自覚を覚醒させられた。

新型インフルエンザ然りで、ウイルスや病原菌も例外ではない。人類が地球的規模で連携しなければ、対処出来ない状況が多々有ると言う事を、再認識する必要がある。

## 提言四

昨年オランダ・ドイツ・フランスと3国のゴミ収集事情の現地調査を行った。ゴミの処理の問題もそうだが、その際、有名なアウトバーンを車で移動した。

日本では、高速道路無料化という政策が出されているが、若干無理が有ると考えている。

そのアウトバーンの仕組みは、こうである。

基本的に一般車輛は無料であるが、道路を傷め易い大型業務用商用車（トラック・トレーラー含む）は有料である。

インターチェンジの入り口と出口で、チェックをするのである。

大型業務用商用車は登録制で、そのナンバーもしくは、登録番号を補足すれば、業務用商用車からは充分、人無しで、自動的に料金徴収が可能になる。至って簡単な仕組みである。ETCなど日本の技術からすれば、容易い事ではないだろうか。過大なコストも掛からない。

インターチェンジの入り口と出口にその捕捉装置を設置するだけでよい。

ドイツでは2005年から始められている。

その理由は、「EUの経済統合後、各国からの交通量の増加に加えて周辺環境対策や道路の整備維持など、莫大な費用がかさんできたと言う事である。」

今の政府・与党の方々は、そういう事例をご存じないのか、調べてもいないのだろうか？

現政権には、シンクタンク機能の充実を求めたい。

この高速道路業務用商用車有料制度は、一考に価するモノだと信じております。

まじめに作ったマニフェストは、まじめに朝令暮改で変化に対応しながら改善されて行けば、誰も文句を言う人はいない。

マニフェストに固執して、行き詰ってしまう事の方が迷惑である。時々刻々と状況は変化し、55年体制の膨大な負の遺産を国民も巻き込んで議論・実行し次世代へと繋いで行きましょう。